

### (3) 青森県立八戸北高等学校

あつまれ わかもの(青者)の森  
～若者のあふれる青森にするために～



政策を考えた県立八戸北高等学校の皆さんから、メッセージをいただきました！



かわしま さき 川島 早葵 (2学年)

青森県をよりよく、もっと大好きな県にするために、若者も積極的な政治参加を！



よしだ しおり 吉田 汐里 (2学年)

「青者」の視点から青森県の問題解決案を出すことで、これからの青森県の活性化につながると思いました。



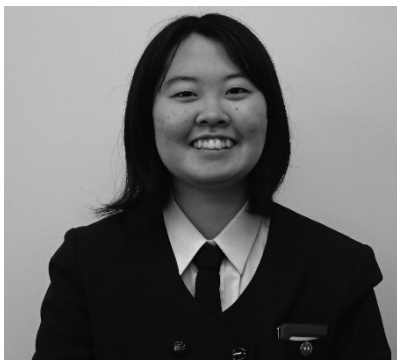
いわま りゅうせい 岩間 竜成 (2学年)

議員の中に寝ている人がいたのが残念でした。でもいい経験をしました。ありがとうございました。



かわももんぜん さりゆき 河門前 紗雪 (2学年)

前よりも政治に興味が持てました。



おがさわら あやね 小笠原 綾音 (2学年)

より活気あふれる青森県になるように、「青者」が積極的に行動していきましょう！

「戻りたい」「働きたい」と思えるような青森県にしていきたいと思います！



きたうら あおい 北浦 あおい (2学年)



たてばやし ゆい  
館林 由依 (2学年)

よりよい青森にするために頑張ります！



ほしもと ひかる (2学年)

若者の力で青森県  
を活性化させよう！！



ふるだて きょうか  
古館 京華 (2学年)

青森県の魅力を発見・発信していきましょう！



わしま なぎさ (2学年)

昔から地域政策などに興味があったので、今回参加できてよかったです。議員さんが優しく、温かく聞いてくださり、緊張していましたが心がほぐれました。青森がもっと大好きになりました。



いなぎき りお  
稲垣 理王 (2学年)

青森の良いところを1つでも多く見付けたいと思い参加しました。他校の発表も、新たな発見の多い発表でした。説明を聞くうちにどんどんイメージが膨らみ、こちらまでわくわくするような感じさえました。議会のあの緊張感あふれる中で自分の思いを発表するのはとても良い体験だと思いました。

また、議員の方々鋭い視線からは、本気で話を聞き、あわよくば導入してやろう、という気持ちが伝わってきました。全力で自分達が行ったことを全力で聞いてくださりありがとうございました。

議会の雰囲気をも自分の目と肌で感じることができ、非常に有意義な時間となりました。

若者はただ政治に関心がないのではなく、政治の未来に希望が持てないでいるのです。議会で寝ている様子等がメディアで取り上げられ、「どうせ自分が投票しても変わらない」と思ってしまうのです。このようなことを少なくし、皆が未来に希望を持てる国、県にするため、政治家の皆さんと我々若者が頑張っていかなければいけないと、改めて強く感じました。本日は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



ひらい そう (2学年)  
平井 颯 (2学年)



やまののうち ゆうと  
山野内 祐人 (2学年)

「この県でよかった」「青森に住みたい」と思う人を1人でも増やすために、定期検診などの医療サービスを充実させ、ストレスになっている人間関係などを改善していければいいと感じました。

今回この活動に参加して、普段遠い存在に感じていた議会でも、学校での話し合いのように、リラックスして他人をいじりながら進行していたので議会がとても身近に感じました。

他校も青森県の同じようなテーマについて調べているのに、3校とも違って、とてもいいアイデアがあり、聞いていてとても楽しかったです。これからの青森のことを考えてこれからも生活したいと思います。

青森の課題に対して政策を考える一方で、青森の良いところもたくさん見付けることができました。  
貴重な機会に挑戦させてもらうことができ、とても嬉しいです。



かきもと えみ  
柿本 瑛美 (2学年)



にしだて ゆずき  
西館 柚希 (2学年)

政策を考えるという正解のない問題に取り組むのはとても大変でしたが、貴重な経験をさせていただけたと思っています。  
ありがとうございました。

## 模擬議会に参加して

八戸北高等学校 山田 明佳

本校では、2年次全体でグループワークを実施し、模擬議会は2年次生の希望者16人で活動しました。

グループワークを12月に実施したため、その後の活動時間が短くなってしまって、締め切りに間に合わせるのに苦労する部分もありましたが、進学先で地域政策を学びたいという生徒も多く、なんとか形あるものにまとめることができました。

各自提案したいことは多種多様でしたが、若者の目線をいかせるのは若者に関することだということで、若者の人口を増やすための政策提案をいろいろな視点で寄せ集める形になりました。

当初は、「若者向けの店を増やす」とか「就職先を増やす」、「給料をあげる」などといったものが多く、議会の役割をよく理解しておらず、また、どういったやり方でそれを実現するつもりなのかまでは考えていない者がいました。経済や政治の仕組みをまだまだ生徒は理解していないということを痛感させられ、どのように教えたらいいかを自問することになりましたが、今回の活動を通して、それこそ、このような機会を通して生徒は世の中のことを自分事として考え、仕組みを理解していくのだと実感しました。

始める前と今では、議会のこと、世の中のことが、前とは違って見えていて欲しいと思います。

このような貴重な機会を提供していただき、県選挙管理委員会事務局の方々、藤井先生、県議会議員の方々、関係者各位に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

# あつまれ わかもの（青者）の森 ～若者のあふれる青森にするために～

青森県立八戸北高等学校

1

八戸北高校の政策提案は「あつまれわかもの森～若者のあふれる青森にするために～」です。

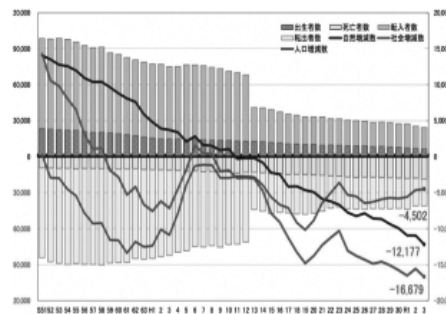
このテーマはあえて、若者を「青者」と書いていますが、青は若々しいという意味であるように、青森も青年があふれる県になってほしいという願いからこのテーマにしました。(1)



私達は青森県の一番の課題は若者の人口減少だと考えました。

## 私たちの考える一番の青森県の課題～若者の人口減少～

### 青森県の人口減少



自然増減のマイナスも大きい  
社会増減のマイナスも大きい。

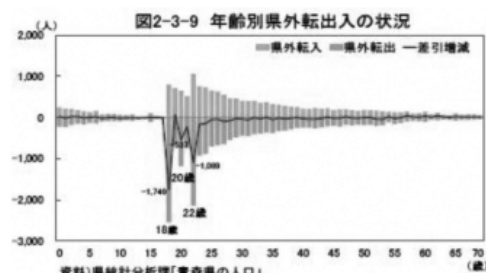
このグラフは青森県の人口の増減を表しています。

このグラフから自然増減のマイナスも大きい、社会増減のマイナスも大きいということが分かります。(2)

2

## 私たちの考える一番の青森県の課題～若者の人口減少～

### 若者の県外転出



特に18～22歳で県外に  
転出する人が多い。

このグラフは若者の県外転出入の年齢毎の推移を表しています。

特に18～22歳で県外に転出する人が多いということが分かります。

そこで私達は若者を増やすために6つの視点から政策を考えました。(3)

3

## 若者を増やす6つの視点

- A 若者が楽しめる街づくり
- B スポーツを盛んにする
- C 青森で働く若者を増やす
- D 子育てしやすい県に
- E 若者が政治参加する県に
- F もっと青森の良さを発信していく

4

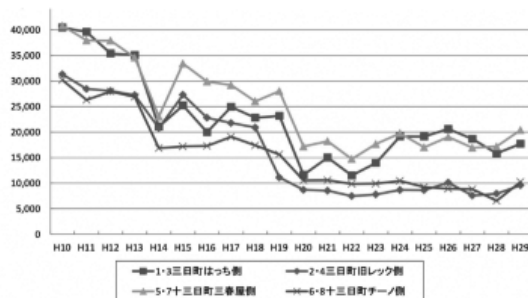
A若者が楽しめる街づくり、Bスポーツを盛んにする、C青森で働く若者を増やす、D子育てしやすい県に、E若者が政治参加する県に、Fもっと青森の良さを発信していく、です。



私は「若者が楽しめる街づくり」について考えました。(4)

### A 若者が楽しめる街づくり

#### 八戸の中心街の歩行者通行量場所ごとの推移



年々減っている！

八戸市以外でも同様と思われる。

5

このグラフは、八戸の中心街の歩行者通行量の場所ごとの推移を表しています。

全体的に20年間で歩行者通行量は約2分の1になっており、年々減っていることが分かります。このような現状は八戸市以外でも同様だと思われれます。(5)

次に、八戸市の中心街の現状は次のようになっています。

### A 若者が楽しめる街づくり

#### 中心街の現状

- ・歩行者通行量が減少し、賑わいを失いつつある。
- ・行政、文化、スポーツ施設、医療、福祉などのサービス利用者は堅調であるが、賑わいには結びついていない。
- ・若者向けの施設が少ない。
- ・中心街で若者向けの店を出す人が少ない。

6

歩行者通行量が減少し、賑わいを失いつつある。行政、文化、スポーツ施設、医療、福祉などのサービス利用者は堅調であるが、賑わいには結びついていない。

私は特に「若者向けの施設が少ない、中心街で若者向けの店を出す人が少ない」という点を改善したいと思いました。(6)

A 若者が楽しめる街づくり

### 政策案①

**空きビルを利用し、若者向けの店をだす若者の起業支援をする。**

7

そこで、私は空きビルを利用し、若者向けの店を出す若者の起業支援をするという政策案を考えました。(7)

A 若者が楽しめるまちづくり

#### 具体的内容

- ・ 県で空きビルを買い取り、20～35歳以内で若者向けのお店を出したい人に2年間を限度として、ビルの一角を無償で貸し出す。
- ・ ビルには学生が勉強できるようなスペースも設ける。
- ・ SNSなどで「中心街で起業しませんか」といった広告を出す。
- ・ 起業した人にはセミナーを受けさせたり、アドバイスをしたりするなど経営面でもサポートしていく。

8

この案の具体的内容は、県で空きビルを買い取り、20～35歳以内で若者向けのお店を出したい人に2年間を限度として、ビルの一角を無償で貸し出す。ビルには学生が勉強できるようなスペースも設ける。SNSなどで「中心街で起業しませんか」といった広告を出す。起業した人にはセミナーを受けさせたり、アドバイスをしたりするなど経営面でもサポートしていく、です。(8)



この政策を実行することの効果として、「若者が中心街に集まることで、街に賑わいが溢れる」、「起業しやすくなることで、今まで街に無いような店も挑戦しやすくなる」、「起業経験がある人が増え、起業しやすい県として起業したい若者が集まる」、「商業の知識を身に付けることで安定した売り上げを出すことができる」、「期間を限定して店を入れ替えることで、成功したお店は場所を変えて継続営業することで若者向けのお店がどんどん増えていく」という利点が出るのではないかと考えました。(9)

A 若者が楽しめる街づくり

#### ねらい

- ・ 若者が中心街に集まることで、街に賑わいが溢れる。
- ・ 起業しやすくなることで、今まで街に無いような店も挑戦しやすくなる。
- ・ 起業経験がある人が増え、起業しやすい県として起業したい若者が集まる。
- ・ 商業の知識を身に付けることで安定した売り上げを出すことができる。
- ・ 期間を限定して店を入れ替えることで、成功したお店は場所をかえて継続営業することで若者向けのお店がどんどん増えていく。

9

以上が「若者が楽しめる街づくり」の視点からの政策提案です。



B スポーツを盛んにする

地元に残る若者を増やすためには

**地元の魅力＝仲間がいること**

\*特に部活動を通じた仲間の存在は大きい。



その仲間と一緒に活動する機会があれば地元に残りたいと思う若者は増えるはず

10

次に「スポーツを盛んにする」の視点からの政策提案です。

僕たちはスポーツを盛んにするために、地元に残る若者を増やすためにはどのようなことができるだろうかと考えました。



そのときに、地元の魅力とは仲間がいることだと思い、特に部活動を通じた仲間の存在は大きいということで、その仲間と一緒に活動する機会があれば地元に残りたいと思う若者は増えるはずだと考えました。(10)

B スポーツを盛んにする

政策案②

**18~29歳を出場資格とする、出身高校対抗の各スポーツ大会を開催する。**

11

そのための政策案として18～29歳を出場資格とする、出身高校対抗のスポーツ大会を開催することを提案します。(11)

B スポーツを盛んにする

具体的内容

- ・それぞれのスポーツ経験者から有志を募り、その有志を中心として運営をしてもらう。
- ・県は体育館やグラウンドの確保や金銭面でバックアップをする。
- ・普段あまり使われていない各地域の体育館を積極的に利用する。  
→日頃から練習でも活用してもらい、**運動習慣**をつけてもらう

12

具体的な内容として、それぞれのスポーツ経験者から有志を募り、その有志を中心として運営をしてもらう。県は体育館やグラウンドの確保や金銭面でバックアップをする。普段あまり使われていない各地域の体育館を積極的に利用する。それによって日頃から練習でも活用してもらい、運動習慣をつけてもらう、といったことを考えています。(12)

B スポーツを盛んにする

プラスの狙い

- ・生活習慣病の予防として出来ることをまとめたパンフレットを参加者に配付するなどし、健康づくりにつながる情報を提供する機会とする。 **短命県返上**
- ・大会の優勝者やチームに青森県の特産物を賞品として提供し、特産品のPRをする機会とする。

13

またプラスの狙いとして、生活習慣病の予防としてできることをまとめたパンフレットを参加者に配付するなどし、健康づくりにつながる情報を提供する機会とする。それによって短命県返上にもつながります。

大会の優勝者やチームに青森県の特産物を商品として提供し、特産品のPRをする機会とします。(13)

B スポーツを盛んにする

その他の政策案

- ・県出身のプロスポーツ選手を招いた講演会などを多く開催する。
- ・青森県の気候を生かしたスポーツ（冬季スポーツなど）の市民参加型の大会を開催する。

14

その他の政策案としては、県出身のプロスポーツ選手を招いた講演会などを多く開催する。青森県の気候を生かしたスポーツの市民参加型の大会を開催する、といったことを提案します。(14)



以上が「スポーツを盛んにする」の視点からの政策提案です。

C 青森で働く若者を増やす

現状

県外への転出の理由の多くを占めるのは就職・転勤である。(図2-3-13) 令和3年度文部科学省調査によると高等学校卒業者の県外就職率41.3%、令和3年青森労働局調査によると大学卒業者の青森県内就職内定率33.5%といずれも半分を切っている。

図2-3-13 「県外への転出」の移動理由



※グラフデータは「令和3年度版青森県社会経済白書」から

15

続いて「青森で働く若者を増やす」という視点からの政策提案です。

まず現状として、青森県の若者の県外への転出の理由の多くは「就職・転勤」となっています。

特に20歳から24歳の転出が多く、またその理由の多くを就職が占めています。(15)

C 青森で働く若者を増やす

### 政策案③

**失業中の若者に対して、青森県内でさまざまな業種を体験してもらい、その職業の魅力や青森県で働く良さを知ってもらう**

16

また、青森の高等学校卒業者の県外就職率は41.3%、大学卒業者の県内就職率は33.5%と、いずれも半分を切っているのが現状です。(15)

そこで、失業中の若者に対して青森県内で様々な業種を体験してもらい、その職業の魅力や青森県で働く良さを知ってもらうという政策を提案します。(16)

C 青森で働く若者を増やす

### 具体的内容

- ①インターネットや職業安定所などを通して希望者を募集する
- ②希望者に自分の気になる体験（職種）を選んでもらう
- ③期間は2～3週間くらいを想定する
- ④相談に乗ったり活動のサポートをする

17

具体的内容としては、①インターネットや職業安定所などを通して職業体験の希望者を募集する、②希望者に自分の気になる業種を選んでもらう、③2～3週間を想定した期間で職業体験を行う、④体験者に対して相談に乗ったり、サポートをしたりする、の4つを挙げます。(17)



ここから、2つのプランに分けて考えます。

プランAは青森県民の10～20代を対象とし、基本は自宅から通ってもらいます。

C 青森で働く若者を増やす

### 2つのプラン

**プランA:青森県民の10～20代を対象とする。**

基本は自宅から通ってもらう。

**プランB:都会で失業した10～20代を対象とする。**

県が用意した民泊を利用してもらいその費用は県が補助する。

→プランAは青森県内の若者の県外流出を防ぎ、プランBは都会暮らしに疲れスローライフに憧れる若者を県内に呼び込むことができる。

18

プランBは都会で失業した10～20代を対象とし、県が用意した民泊を利用してもらい、その費用は県が補助します。(18)

次にそれぞれのプランについての狙いを説明します。

C 青森で働く若者を増やす

ねらい

<プランA>

青森県の人口減少と労働力人口減少の要因となっている青森県の若者の県外流出に歯止めをかけ、県内定着を図る。

<プランB>

県外から青森に来ようと考えてくれる人は都会暮らしに疲れた人であると考え、あえて都会の失業者をターゲットとする。

→雇用保険受給中に生活費が浮く形で就労体験ができ、青森県の食や文化を味わえるという魅力で惹きつける。

19



プランAは、現在の課題である青森県の人口減少と労働力人口減少の要因となっている若者の県外流出に歯止めをかけ、県内定着を図ります。

プランBは、前提として県外から青森に来ようとする人は都会暮らしに疲れスロライフに憧れる人であると考え、あえて都会の失業者をターゲットとします。

このようにターゲットを絞ることで、雇用保険受給中に生活費が浮くかたちで就労体験ができ、青森県の食や文化を味わえるという魅力で惹きつけることができます。(19)

また、農業の後継者不足対策も狙いの1つです。

青森県は農林水産業といった一次産業が盛んな一方、従業者の高齢化と、基幹的農業従事者の減少が進んでおり、このままでは青森県の農業は衰退の一途を辿ることとなるでしょう。

C 青森で働く若者を増やす

農業の後継者不足対策にも

青森県は農業などの一次産業が盛んな一方、従業者の高齢化の進行・基幹的農業従事者の減少が進み、このままでは青森県の農業は衰退してしまう。

→そこでこの政策により一次産業への壁をなくし、一次産業に就きたいと思う若者を増やす。インターンシップ制度のない農業や漁業を体験できる貴重な機会となる。後継者を探す農家などとのマッチングを行ったりと、新規でなく農業等を始められるサポートを行う。

20

そこでこの政策により若者の一次産業に対する壁をなくし、一次産業に就きたいと思う若者を増やすことを図ります。

インターンシップ制度のない農業や漁業を体験できる貴重な機会となり、興味を持つ若者も増えるのではないのでしょうか。

この他に後継者を探す農家などとのマッチングを行ったりと、新規でなくても農業を始められるサポートを行うことも考えます。(20)

C 青森で働く若者を増やす

その他の政策案

- ・現役の人たちが若者向けのワークショップや講座を開き、青森県で働くことをすすめる
  - ・初期費用や軌道に乗るまでの数年間の補償を充実させる
  - ・働く場所の周りにモチベーションアップになるような環境を作る
  - ・LINEを使って職業に関する相談ができるようなチャットを開設する
  - ・学校に講演しに行き、県内就職をすすめる
- ※県立高校はすでに実施→私立高校や大学・職安にも
- ・就活期の会社見学会の回数を増やすよう起業に働きかける

21

その他の政策案としては、「現役の人達が若者向けのワークショップや講座を開き、青森県で働くことを勧める」、「初期費用や軌道に乗るまでの数年間の補償を充実させる」、

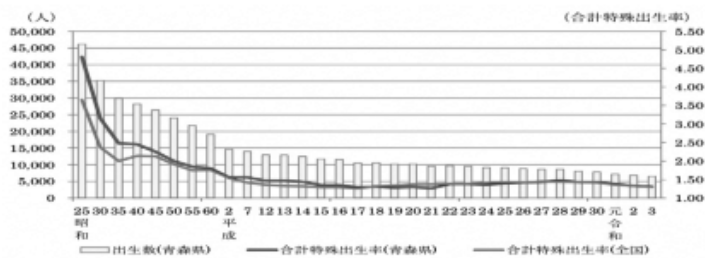


「働く場所の周りにモチベーションアップになるような環境を作る」、「LINEを使って職業に関する相談ができるようなチャットを開設する」、「学校に講演しに行き、県内就職を勧める」、「就活期の会社見学会の回数を増やすように企業に働きかける」といったことを提案します。(21)

## D 子育てしやすい県に

### 現状

- ・ 令和3年度 出生数6513人（前年より324人減少）
- ・ 令和3年度 合計特殊出生率は1.31（前年より0.02減少）



続いて「子育てしやすい県に」という視点からの政策提案です。

青森県の出生数等の状況は、令和3年度時点で出生数6513人、合計特殊出生率は1.31と、70年前に比べると約3分の1になっており、年々減少傾向にあります。(22)



この現状を踏まえて私達は、育児休業給付金の増額を提案します。

## D 子育てしやすい県に

### 政策案④

#### 育児休業給付金の増額（3%上乘せ）



雇用保険から支給される育児休業給付金（現在67%）に青森県が3%上乘せし、70%支給

内容は、雇用保険から支給される67%の育児休業給付金に青森県が3%上乘せし、70%支給するという政策です。(23)

23

D 子育てしやすい県に

ねらい

子育ての場所として他県でなく**青森県を選んでもらうにはインパクトが必要**



育児休業給付金70%という宣伝文句は相当なインパクトになるのでは。

24

子育ての場所として他県ではなく青森県を選んでもらうために、育児休業給付金70%という政策は相当なインパクトになると考えました。(24)



子育て支援が手厚いヨーロッパは、育児休暇中の給付金の支給額が70~100%で、出生率は上がっています。

そのため、ヨーロッパ水準というフレーズは青森県が子育てしやすい場所だという印象につながるはずです。

D 子育てしやすい県に

- ・子育て支援が手厚い**ヨーロッパ諸国**は育児休暇中の**給付金の支給額が70~100%で出生率は上がっている**

→ヨーロッパ水準というフレーズは青森県が子育てしやすい場所だという印象になる繋がるはず

- ・支給率UPは女性だけでなく**男性の育児休暇取得の促進も**  
→女性の育児の負担軽減

25

また、支給率アップは女性だけではなく、男性の育児休暇取得を促進し、女性の育児の負担軽減にもつながると考えました。(25)

D 子育てしやすい県に

その他の政策案

- ・両親教室の機会を増やす。
- ・母親だけ、父親だけでなく、両親同士が意見交換できる機会を作る。  
(対面またはオンラインで意見交換)
- ・学童保育のおやつを県がまとめて作ったりフードバンクをしたりして配付し、保護者のおやつ代の負担軽減をする。

26

その他の政策案として、両親教室の機会を増やしたり、母親、父親だけでなく、両親同士が意見交換できる機会を作ったり、対面での交流に抵抗がある方のためにオンラインでの意見交換の場を用意する、学童保育のおやつを県がまとめて作ったりフードバンクをしたりして、保護者のおやつ代の負担軽減をするなどの案も出ました。(26)

E 若者が政治参加する県に

現状

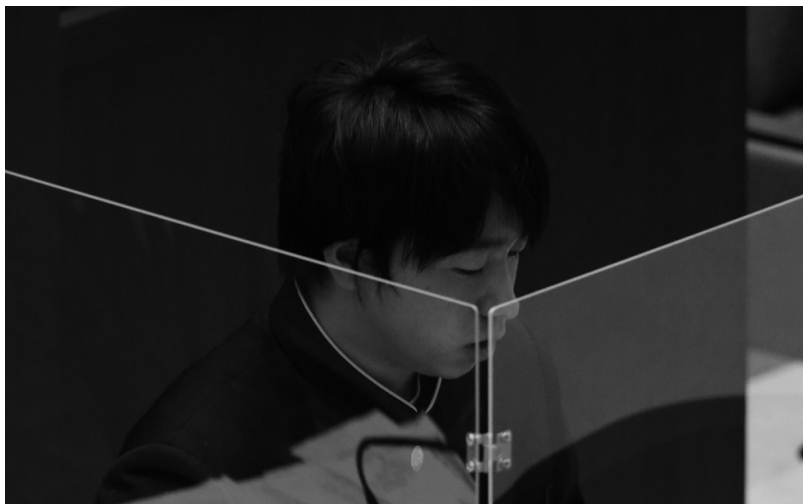
- ・ R4 参議院 18~19歳 30.40%
  - いずれの選挙でも18~19歳の投票率は低い
  - ・ 投票に行かない1番の理由は「政治に関心がないから」
- (右の図は第24回参議院選挙18~19歳の投票率)

27

1	東京都	57.84	26	大分県	42.58
2	神奈川県	54.70	27	沖縄県	42.58
3	愛知県	53.77	28	新潟県	42.52
4	奈良県	51.63	29	群馬県	42.41
5	埼玉県	50.73	30	栃木県	42.35
6	滋賀県	50.57	31	秋田県	42.29
7	三重県	50.12	32	福井県	42.19
8	千葉県	49.89	33	和歌山県	41.81
9	岐阜県	49.01	34	福島県	41.39
10	山梨県	47.78	35	富山県	41.25
11	京都府	46.86	36	熊本県	39.70
12	大阪府	46.80	37	岡山県	39.53
13	全国	46.78	38	鳥取県	39.52
14	山形県	45.91	39	長崎県	39.32
15	宮城県	45.65	40	青森県	38.96
16	長野県	45.32	41	島根県	38.94
17	佐賀県	45.00	42	鹿児島県	38.94
18	兵庫県	44.74	43	山口県	37.73
19	福岡県	44.74	44	広島県	37.23
20	石川県	44.60	45	香川県	36.52
21	北海道	43.38	46	徳島県	36.01
22	岩手県	43.03	47	愛媛県	35.78
23	静岡県	42.97	48	富山県	33.61
24	茨城県	42.85		高知県	30.93

続いて「若者が政治参加する県に」という視点からの政策提案です。

現状として、令和4年参議院議員選挙での18~19歳の投票率は30.40%と低いです。その他の選挙でも18~19歳の投票率は低いです。投票に行かない1番の理由は「政治に関心がないから」でした。



第24回参議院議員選挙における18~19歳の投票率は、青森県は38.96%で39位と、全国平均を大きく下回っています。(27)

私達は若者の政治参加の増加が若者の人口減少を解決する鍵になると考えました。

そして投票は、行政に私達が意見を届けるためのツールであり、権利であると認識しています。

E 若者が政治参加する県に

若者の政治参加UPで若者が住みたい県に

若者に政治についてより関心を持ってもらう  
若者の投票率を上げる

↓  
若者が主体的にまちづくりに関わるように

↓  
若者が生き生きと活動する、若者が住みたい県になる 28

若者の投票率が上がることで若者の意見が通りやすくなり、若者が住みたい県になると考えました。

その結果として、将来的には若者のUIターンが増え、若者が生き生きと活動する県になると考えました。(28)

E 若者が政治参加する県に

政策案⑤

**海外視察プロジェクト**

日本よりもはるかに政治に関心が高く、投票率も高い海外の国々を視察する

29

そこで私達は、日本よりもはるかに政治に関心が高く、投票率も高い海外の国々を視察する「海外視察プロジェクト」という政策を提案します。(29)

E 若者が政治参加する県に

## 具体的内容

- ・ 県内の高校生から希望者を募る
- ・ 長期休みを利用して行く
- ・ 県から視察の補助金を出してもらう
- ・ 海外の主権者教育の現場や現地学生の参画活動を視察
- ・ 投票率の高い国、若者の政治活動が活発な国

(アメリカやスウェーデン、ドイツなど)を対象に視察 30



具体的な内容としては、県内の高校生から希望者を募る。長期休みを利用して行く。県から視察の補助金を出してもらう。海外の主権者教育の現場や現地学生の参画活動を視察する。投票率の高い国、若者の政治活動が活発な国、例えばアメリカやスウェーデン、ドイツなどを対象に視察します。(30)

この視察の狙いとしては、現地に行って視察することで、その場でしか学ぶことができない海外との違いを新たに発見し、若者が積極的に政治活動をしている現状を肌で感じてもらうことにあります。

E 若者が政治参加する県に

## ねらい

現地に行って視察することで、その場でしか学ぶことができない海外との違いを新たに発見し、若者が積極的に政治活動をしている現状を肌で感じてもらう

31

そして若者が政治に関心を持てるようになればいいと考えました。(31)

E 若者が政治参加する県に

## その他の提案

- ・ 高校や大学に短時間ずつでいいので、期日前投票所を設置する
- ・ 若者が魅力を感じる場所を共通投票所にする  
→ SNS映えする場所、有名人が訪れたことのある場所等

32

その他の提案として、高校や大学に短時間ずつでいいので、期日前投票所を設置する。SNS映えする場所、有名人が訪れたことのある場所など、若者が魅力を感じる場所を共通投票所にすることが挙げられました。(32)



F もっと青森の良さを発信していく

青森県の方言の認識

- ・まるで呪文のようだ。・未知の言語だ。
- ・AIですらお手上げ。などとする記事も！！
- ・2021年 都道府県 **方言魅力度ランキング 7位**

33



最後に「もっと青森の良さを発信していく」という視点からの政策提案です。

もっと青森の良さを発信していくためには、青森県独特の津軽弁、南部弁、下北弁などの方言を活用して、青森の面白さや魅力を県内外にもっとPRするべきだと考えました。

そこで、提案する政策案は「青森県方言スマホゲームを開発する」です。

現状において青森の方言については「まるで呪文だ」、「未知の方言だ」、「AIですらお手上げだ」という記事もあるように、興味を持ってもらっていることが分かります。

しかも2021年の都道府県方言魅力度ランキングでは7位と、魅力的にも感じてもらえています。

興味はあるけれど難しすぎてついていけないという人が多いのではないのでしょうか。(33・34)

F もっと青森の良さを発信していく

政策案⑥

**青森県独特の方言**（津軽弁・南部弁・下北弁）  
を活用して、青森の**面白さ・魅力**を県内外にPRする。



**青森県方言スマホゲームを開発する**

34

F もっと青森の良さを発信していく

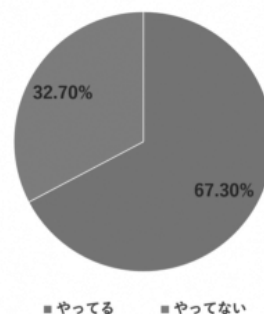
**コロナ自粛でスマホゲームの需要が増加。69.20%の人が「需要が高まっている」と回答。**

プレスリリース発表元企業：株式会社日本マーケティングリサーチ機構 配信日時：2021-06-16 12:49:37

スマホゲームに関する一般調査

「情報の力で、明日の日本の未来を創造する」を理念に、多くの企業や市場リサーチを行っているJMRO（日本マーケティングリサーチ機構）は2021年6月に、日本全国の10～70代以上の男女を対象に「スマホゲーム」においてインターネットを活用した一般調査を行いました。（有効回答数948人）

株式会社日本マーケティングリサーチ機構公式サイト：<https://jmro.co.jp/>



35

コロナ自粛でスマホゲームの需要が高まったか否か、一昨年、日本マーケティングリサーチ機構が日本全国の10～70代の男女を対象に調査を行いました。

約7割の69.2%もの人が「需要が高まっている」と答えています。(35)

F もっと青森の良さを発信していく

### ねらい

- ・コロナ禍で**スマホゲーム**の需要増加

→**69.20%**の人が回答



- ・**スマホゲームを活用**して青森県の魅力を「方言」でPR。



**スマホゲームで楽しんだことをきっかけに**  
**青森に興味を持ち青森を訪れてもらう。**

36

魅力はあるが難しすぎる方言と、幅広い年齢層に使われているスマホゲームを合体させ、スマホゲームを楽しみながら青森について学んでもらい、それを切っ掛けに青森に興味を持ってもらい、足を運んでもらう、というのが狙いです。(36)

F もっと青森の良さを発信していく

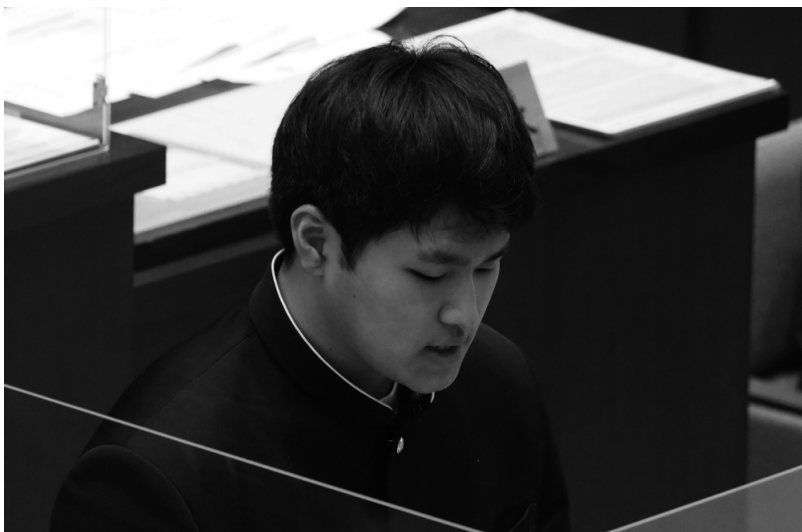
### その他の政策案

- ・赤ちゃんコンテスト→赤ちゃんのお洒落さを競う
- ・各首長対抗ダンスPR対決→県内市町村長が踊り投票してもらう
- ・有名ユーチューバーに何度でもつかえる青森旅行をプレゼント  
→フォロワー数250万以上のユーチューバーに何度も青森にきてもらってその様子を発信してもらう

37

その他の政策案としては、県内の赤ちゃんが集い、互いの可愛さやお洒落さを競い、若い世代や赤ちゃんのいる移住者も楽しめる赤ちゃんコンテスト。県内市町村長がダンスで競い、SNSで発信し人気投票をすることで、簡易的な選挙の投票体験をすることができる各首長対抗ダンスPR対決。

フォロワー数250万人以上のユーチューバーに青森を訪れてもらい青森に滞在しつつ魅力を発信してもらうために、青森旅行をプレゼントする、などがあります。



どれもSNSとの連携を取ることで、より効果的に魅力を発信できる取組であり、現代の若者に向けてPRするには最も効果的であると思います。(37)

以上、青森を若者にあふれ活気のある県にするための政策提案を6つしてきました。

どの分野の提案もそれぞれ特徴のある取組であり、それぞれの分野を連携させることにより、もっと効果的になりえると思います。

### まとめ

青森を若者のあふれる県にするには、さまざまな分野での取り組みが必要。

若者はそれを待つのではなく、自分たちでアイデアを出し、自分たちで行動していくことがなりよりも大事。

そして若者だけでなく、働く世代や高齢者などすべての人が住みやすい県にしていく必要がある。

そして我々若者はそれを待つのではなく、自分たちでアイデアを出し、自分たちで行動していくことが重要であり、若者だけではなく、働く世代や高齢者などが住みやすい県にしていく必要があると考えました。(38)

38

## 【質 疑（質問者：県議会議員、答弁者：青森県立八戸北高等学校）】

●<sup>やまもと</sup>山本 <sup>ともや</sup>知也 議員（自由民主党）

（山本議員）



提案の1つとして、若者に青森県内の様々な仕事を体験してもらおうということがありました。体験した若者にその後も青森県に住み続けてもらうためには、どのような政策、支援が最も効果的だと考えるかお伺いいたします。

（答弁）



都会に無い魅力を感じてもらえるような支援をすることだと考えます。まずは豊かな自然や新鮮な食べ物を体験してもらえようプログラムを工夫します。そして人の温かさ、人とのつながりが大事だと思います。都会暮らしが嫌になったり仕事を辞めたりした人は、特にそういうことを求めていると思います。

体験に関わるサポートスタッフが親身に相談に乗り、青森県内の就職にスムーズにつながるよう支え、その後も困ったときに相談できる存在となるのが大事だと思います。後は安定するまでの期間、特別な低金利で資金を借りられるサポートもあるといいと思います。

（山本議員）

都会にない支援がキーワードだったと思います。このように背景を分析してその課題に向けて政策を作り上げていく、この考え方は学校生活でも使えると思います。例えば校則。どうしても2ブロックはだめなんだろう、どうしても靴下は白じゃなきゃだめなんだろう、そういった背景を分析して学校生活を変えるチャレンジに、ぜひこの手法を活用してほしいと思います。

●<sup>よしまた</sup>吉俣 <sup>よう</sup>洋 議員（日本共産党）

（吉俣議員）



若い方が青森に魅力を感じ、元気に過ごせるようにするということはとても大事なことで、そのために働く場所はもちろんそうですが、スポーツや文化も含め、さらに子育てしやすい県にとというのも、とても大事だと思います。

こうしたメニューの中に、若い方が政治参加するということで、政治課題がしっかり入っていることに注目をしました。

具体的には投票所のことなど言われていますが、若者の政治参加を促進するというので、期日前投票所や共通投票所の設置場所についても提案がありました。県内で設置すれば良いと思われる場所がありましたら具体的にご提示ください。

(答弁)



期日前投票所については、何ヵ所も同時に設置するのは大変なので、1日ごとに順番に、県内の各高校や各大学に設置することを提案します。

高校数は多いため、選挙ごとに入れ替えるかたちでもいいと思います。大学は昼休みの時間、高校は放課後の時間の1時間程度でいいと思います。友達と一緒にということで投票しやすく、高校生、大学生のうちに投票した経験がこの後の投票にもつながるとも考えます。

共通投票所については例えば無料の駐車場があり展示場所がある大型スーパーを提案します。そこに若者に人気のあるアイドルやミュージシャンがコンサートで着た衣装や、スポーツ選手が使用したユニホームや道具を借りてきて、投票日だけ展示することで若者を集めることができると思います。

例えば今なら、サッカーの三苫選手のワールドカップで利用したスパイクであれば、かなり話題を呼ぶと思います。投票率を上げるためということであれば、喜んで貸してくれる人がいるのではないのでしょうか。

(吉俣議員)

青森市内でも様々な努力が始まっています。ぜひこうした努力が広がっていくように、私達も頑張りたいと思います。

また、政治家の側からも若い方と一緒に政治を変えていくということ、発信していくこと、とても大事だと思っておりまして、自治体の首長のダンス対決ということがありましたが、私は踊ることはできませんが、踊らなくてもティックトックはできるということを知りましたので、ティックトックも初めてみました。みなさんと一緒にいろんなかたちでいい政治を作っていきたいと思えます。ありがとうございました。

● なりた ようこう 成田 陽光 議員(自由民主党)

(成田議員)



毎日使うスマートフォンのゲームということで、方言のスマートフォンゲーム、とても面白い発想だと思います。何よりゲームのヒットが一番重要な鍵となってくるのではないかと思いますので、お伺いします。

ゲームの具体的な内容はどのようなことを想定しておりますか。また、皆様のような世代、よくスマートフォンを使う世代、またスマートフォンゲームをやる世代が実際にやって面白いと感じるようなゲームにしていくために、どのような工夫が必要と考えておりますでしょうか、お伺いいたします。

(答弁)



スマホゲームの具体案としては、例えば桃太郎電鉄というゲームのように、青森県内のいろいろなところを旅しながら、それぞれの地域の人々との会話を通して、方言の意味を当てながらランクを上げていくといったものです。

津軽弁や南部弁、下北弁と場所が変われば方言が変わっていきますし、ランクが上がると難易度も上がっていきます。ご当地キャラが出現したり、祭りなどの各地のイベントを疑似体験できたり、ゲーム上で購入した特産品をアイテムとして使ってゲームを進めていくような仕組みにすると 青森県の良さをPR

できると思います。

(成田議員)

テーマのタイトルのゲームなのかと思っておりましたが、桃太郎電鉄のゲームということで大変面白いと思いました。御提案を頭に入れて私もこれから青森県の魅力のPRをしていくよう活動して参ります。みなさんも一緒に頑張ってお参りしましょう。

## 【質 疑 (質問者：青森県立八戸北高等学校、答弁者：県)】

(質問)



2点お伺いします。1点目は、中心街の空き店舗などを活用して若者の起業を支援することにより、街の魅力の増加や、街を訪れる若者や起業する若者の増加、さらには地元に住む若者の増加につながるように思いますが、若者の起業支援について、県ではどのような取組を行っているのか伺いたいです。

2点目は、若者が参加できるスポーツ大会などの機会を増やし、日頃からスポーツに親しむ県民を増やすことで、スポーツを通じた仲間づくりや県民の健康づくりにつなげるべきだと考えますが、県の考えや取組を伺いたいです。

## ●商工労働部 地域産業課

(地域産業課長)



若者の起業を支援する取組についてお答えします。創業・起業は、自ら雇用を創出し、U I J ターンや定住の促進、多様な仕事づくりにつながることから、県では、県内8市に支援拠点を設置し、創業支援の専門家であるインキュベーション・マネージャーが、創業前の構想段階から創業後のフォローアップまで、きめ細かな助言等を行っています。特に、社会経験の少ない若い世代の相談者に対しては、創業に当たっての基礎的なスキルや考え方などについても、丁寧に説明しているところです。

また、創業希望者や創業後間もない方を対象として、心強い相談相手となる先輩起業家や、同じ志の方々とのネットワークの構築・情報交換のため、ウェブを活用した少人数交流会を県内6地区で開催しているほか、U I J ターン創業を促進するため、定期的に東京都内で相談会などを実施しています。

このほか、県内各市町村の取組としては、八戸市において、中心商店街の空き店舗を利用して新たに新店を出す事業者に対し、改装費用等を補助する制度を設けているなど、空き店舗を活用した創業を支援する取組も行われているところです。

県としては、引き続き、将来の地域経済の担い手として重要な役割を果たしていくことが期待される若い世代の創業・起業を支援し、街の魅力の向上や地元に住む若者の増加につながるよう、市町村等と連携しながら取り組んでいきます。

## ●教育庁 スポーツ健康課

(スポーツ健康課長)



ただいまの御質問の中で御指摘があったように、スポーツを通じて、仲間づくりや県民の健康づくりを図っていくということは大変重要であり、国が定めているスポーツ基本法では、基本理念として、スポーツを通じて、地域における全ての世代の人々の交流が促進され、かつ、地域間の交流の基盤が形成されるものとなるよう推進することや、スポーツを行う者の心身の健康の保持増進等が図られるよう、スポーツを推進することなどが示されています。

また、青森県教育委員会が本年1月に定めた、令和5年度から令和9年度までの5年間を計画期間とする「青森県スポーツ推進計画」においても、スポーツを通じた県民の健康づくりや、スポーツを活用した交流人口の拡大による地域の活性化など、「豊かなスポーツライフの実現」を目指すこととしています。

具体的な取組として、青森県教育委員会では、これまでも、県民がスポーツに親しむ機会を提供すること等を目的に、「青森県民スポーツ・レクリエーション祭」、「青森県民駅伝競走大会」などを開催するほか、地域のスポーツ活動を支える総合型地域スポーツクラブの創設・運営に対する指導・助言を行うなど、様々な施策を講じてきたところですが、「青森県スポーツ推進計画」で掲げている「豊かなスポーツライフの実現」のため、今後も、地域の関係団体等と連携しながら、県民のスポーツに親しむ環境づくりやスポーツを通じた健康づくりに取り組んで参ります。